

この人と30分

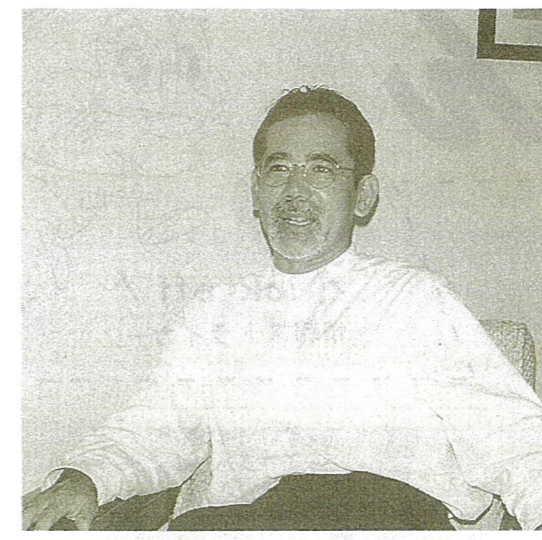
ぶらり訪問24



学び、教育し、ネットワークを作る

職業能力開発大学校建築工学科助教授
木造建築研究フォーラム企画委員長

松留慎一郎(まつどめ しんいちろう)氏



プロフィール

1952年、鹿児島県生まれ。75年東京大学工学部建築学科卒業、81年同大学院博士課程修了、同大学建築学科助手、職業訓練大学校(94年職業能力開発大学校に改名)建築科講師を経て現職。モットーは「誠実に今を生きる」、趣味はテニス、最近読んだ本は「竹と建築」(INAX出版)、近頃、青少年の心のあり方に 관심이。血液型B。

訪問インタビュー第二回は、職業能力開発大学校の松留慎一郎先生。この十月、天竜市で開催される木造建築研究フォーラム事前会議のため来静された折、訪問インタビュー。

天竜フォーラムの意義、性能規定化時代の木材業界の対応など、幅広いご意見をいただきました。

実践方法、天竜をモデルケースに
Q、天竜で開催される木造建築研究フォーラムの意義は何でしょうか？

木造建築に関する幅広い研究と連絡調整の場を提供するため、昭和六十二年に設立された「木造建築研究フォーラム」も発足から十一年を経て、設計、建築、木材等に関係する産業者、研究者など会員も約一四〇〇名と多分野からの支持をいただくまでになりました。

この間、内田祥哉会長を中心に、フォーラム、研究会、会誌の発行などを通して、今、木造建築がかかえている様々な問題を討議研究してきました。なかでも公開フォーラムは、特定テーマにふさわしい開催地が選定され、各地域の自治体や団体との共催で全国各地で多彩に開催されています。

今秋の天竜フォーラムのテーマは「森林都市宣言とまちづくり」です。森林都市宣言(天竜市、群馬県沼田市、沖縄県平良市)の三市長が一堂に会し、森林に住む、森林と共存する、森林と都市の関係を考えるなど、天竜をモデルケースとして今後の実践方法を考えてゆきます。

今回のフォーラムの特長は、当日資料のほかに、様々な討議の内容を踏まえ、今後天竜市が森林都市宣言にふさわしいまちづくりを進めらうと参考となる提言書が取りまとめられる予定です。県内の多くの木材人が参加されることを望んでいます。

信頼感、安心感を与えるために
Q、建築基準法改正にもなる「性能規定化」について、どうお考えですか？

基本的には歓迎すべき方向だと思います。また、現行の基準法、公庫仕様を真面目に守っている方々は、特に困ることはないというのが私の考えです。ただ、耐力壁の配置、開口部の取り方など構造に絡む部分については、従前より具体的な基準が入ってくる可能性はありますね。

Q、現在の大工・工務店レベルで2x4、プレハブ並みの「性能表示」まで対応できるでしょうか？

行政としては、大工さんたちが全部やらざるを得ないように法律段階でガチガチに固めることはやりにくいでしょうね。したがって、造り方でなくては安心できない、というところから仕掛けてくる可能性ががあります。少なくとも、ユーザー側からプレッシャーが掛かることになると思います。

木造住宅離れしているユーザー、特に都市部では基本的に大工・工務店が信用できない、不安というところだと思っています。「総合的な信頼感、安心感」の差が大手住宅メーカーに流れてゆく理由でしょうから、大工・工務店もお客さんの信頼を得る方向で努力をするのが大切です。

法律で縛ることは難しくても、前述の公庫仕様のようにユーザー保護の立場から、今後様々な形の仕掛けが予想され、工務店への後方支援は絶対に必要です。

誰が住宅造りを仕切るのか

Q、地域の中小業界はどう対応してゆくべきでしょうか？

昔は木材業界が大工・工務店さんの面倒をみていたのですが、今は大手のビルダーや建材屋さんがこれに取って代わっています。木材業界が木を中心に展開しようとするならば、木材だけでなくその周辺情報の提供が不可欠です。大工さんたちはバラバラですから情報提供や研修を通して、ノウハウを教育してゆくことが大切です。これからは、木材を売るだけで

は難しいでしょう。要は、誰が住宅造りを仕切るのか、情報をもつてユーザーの要求に応える住宅造りをコントロールできるのかという事です。幸いにもまだ、住宅を造ることに自信はあるがその他はちょっとという職人さんがたくさんいます。この職人さんたちがプレハブの下請になってゆくのか、建材屋さんがまとめてゆくのか、建築士が入って一緒に組んでゆくのか、今まさに、そのせめぎあいの時期ではないでしょうか。

Q、木材業界として具体的にどう対応すべきでしょうか？

集材材などによる大量発注、大量消費の大手ビルダーと同様の方法ではなく、少量部材の供給しできないことを逆手にとり、小回りのきくネットワーク作りを進めるのが一番だと思います。基本的には木材業界自らが学び、大工さんに教育し、一緒にやってゆくことがよいでしょう。

具体的な取り組みには色々なパターンがありましようが、木材を中心にした情報、構法そのものや関連したノウハウ、CPM等工程管理のノウハウ、さらに積算や品質管理も含めた総合的な施工管理

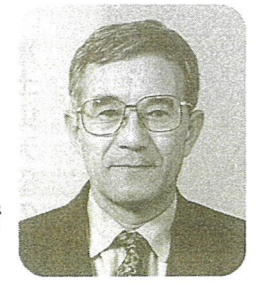
ノウハウを付けて売る

Q、最後に本県の木材業界に向けてひとことお願いします。繰り返しになりますが、単純に

物を売るのはなく、良い木材を工務店さんがうまく使えるようにノウハウを付けて売ることです。住宅造りに関する総合的な指導や建築士を含めたネットワーク作りを営業や工程管理等のソフトを含めて進めることです。木造建築の分野ではここが一番足りないところですし、世の中の役にも立ちますし、何よりも大工・工務店の賛同が得られるでしょう。自ら学び、教育し、ネットワーク作り而努力してゆけば必ず展望が開けると思います。(文責 編集室)

NEWリーダーに聞く その2

危機感をバネに



御殿場木材協同組合
理事長 芹沢 衛

今春の総会で、石井敬三氏の後任として理事長に選任されました。先行き不透明な、誠に厳しい商況下に組合をお預かりすることとなり、身の引き締まる思いです。

当面、前理事長時代からの懸案事項であるPR事業を推進してまいります。幸いにも40歳代の経営者、後継者に非常な危機感があり、これらの若手会員10名を中心に据え、暫定的に「PR委員会」を設置し、事業の中核を担っていただきます。

既に8月、ローカル紙上に、地域型住宅・みくりやの家のPRを兼ねて、2回の新聞広告を実施しました。この反響を踏まえて理事会で今後の体制の組み立てを協議してゆく予定です。

ともあれ、このPR事業を通して少しでも会員事業所の営業支援がはかれるよう、一杯努力してまいります。

若手の危機感をバネに、会員38社の結束をはかりたいと思います。



▲地域型住宅・みくりやの家モデル